

「知床五湖冬期利用促進事業」に基づく試行の進め方について (たたき台)

○提案内容の概要

本提案は、冬期閉鎖されている道道知床公園線岩尾別ゲートより奥にある知床五湖周辺を、エコツーリズムの理念に基づく利用させるものである。1～3月にかけて、1日100人程度を登録引率者が引率するものであり、道道、町道等の除雪を行い登録車両での乗り入れを可能とする。

○知床エコツーリズム戦略の基本原則との対応

- ・ルールに基づく限定的な利用により自然環境の保全は図られる。奥深い知床ならではの静寂な自然体験が資源価値を向上させる。
- ・自然遺産地域で活動する自然ガイドの意識の向上が図れる。ルールに基づく限定的な利用は静寂で特別感のある知床らしい良質な自然体験を提供することができる。
- ・冬期における新たな利用の機会の創出は、リピーターの増加や滞在型観光の拡大を図ることができる。観光客数の少ない冬期間の安定的な観光事業の展開に寄与し、地域経済への貢献へとつながる。

○今後の検討の進め方

個別部会を組織し、詳細を検討する。

○個別部会の構成

- ・知床斜里町観光協会、知床ガイド協議会、環境省、林野庁、斜里町、北海道、自然公園財団とする。
- ・事務局は知床斜里町観光協会が務め、斜里町がサポートを行う。
- ・部会の進行役は斜里町が担当する。
- ・専門家として、中川元委員の参加を依頼する。

○部会設置後の検討事項（基本方針との対応）

- ・戦略の趣旨に従い、地域主体の取組が持続的に運営できる方法の検討
- ・多様な主体との連携・協働として自然ガイドの登録方法、除雪体制等の検討
- ・希少猛禽類の生息・繁殖に影響を与えないような利用ルール、遺産地域の有する原始性を保持するための利用期間・人数の設定の検討
- ・自然への理解を促進させるためのプログラム内容・ルール啓発法等の検討
- ・100 m²運動等の歴史的資源の活用の検討
- ・事業実施主体の責任の明確性の構築と利用者責任範囲の検討

- ・ 受益者負担による知床の価値向上の仕組みの検討
- ・ 自然環境への影響等を把握するためのモニタリング項目・実施方法の検討